



議会図書室からのお知らせ

今月の新着図書
R6年1月号

『ビジネスケアラー ～働きながら親の介護をする人たち』

介護問題

酒井穰【著】/ディスカヴァー・ジャパン (2023/7)



これから増え続けるであろう「ビジネスケアラー」。社会・家族・自らのバランスを保ちながらポジティブに向き合う方法とは？30年以上介護経験のある著者が「ビジネスケアラー」の新常識や仕事と介護を両立させるための方法・指針を紹介する。

『GXがよくわかる本 ～脱炭素と経済を両立! 環境保全の国家戦略』

GX

松村雄太・関貴大【著】/秀和システム (2023/8)



GXとは一体何なのか？今、GXが注目される背景や国内外の取り組み事例を豊富に紹介。「GX投資」「DX」「メタバース」など関連ワードも合わせて解説する。GXに取り組んでいる自治体担当者、GX/ESGに興味のある方必読！

『正しく使いこなすためのビジネス語彙トレ ～プレゼン・打合せで役立つカタカナ語&頻出 ワード720』

ビジネス

ビジネス語彙トレ編集室【編】/メイツ出版 (2023/8)



「EEZ」「戦略」「ファブレス」・・・？ニュースや会議、ビジネスメールでよく見る単語だが、正しく理解し、使えているのか不安な語彙の数々。「なんとなく知っている」から「正しく使える」にスキルアップできる、今すぐ役立つドリルブック！

『中流危機』

経済

NHKスペシャル取材班【著】/講談社 (2023/8)



かつて日本の経済成長を支えてきた労働と消費意欲に満ちた「中流階層」の姿は崩壊した。格差が拡大し、急激に貧窮したことで意欲も低迷する「中流危機」の現状を打ち破るため、国・企業・労働者は何ができるのだろうか。再生の処方箋となる書！

『地域森林とフォレスター ～市町村から日本の森をつくる』

林業

鈴木春彦【著】/築地書館 (2023/4)



地域森林管理の要となる事務系職員「フォレスター」。その心構え、林政の実際などを「自治体フォレスター」として長年活躍してきた著者が明快に解説。これからの日本の森林を、地域と共働しながら楽しく持続していく！森林職の魅力がわかる1冊。

『教員不足クライシス ～非正規教員のリアルからせまる教育の危機』

教員問題

山崎洋介・杉浦孝雄 他【編著】/旬報社 (2023/5)



なぜ今「教員不足」が問題化しているのか。その大きな原因でありながら長年見ないふりにされてきた「教員の非正規雇用問題」に着目し、その実態に切り込む。安価な手段として進んだ非正規化により危機に陥った教育現場の問題を浮彫りにする。

『安倍晋三VS.日刊ゲンダイ ～「強権政治」との10年戦争』

政治

小塚かおる【著】/朝日新聞出版 (2023/10)



創刊以来、権力に媚びず攻める姿勢を貫く「日刊ゲンダイ」。同紙第一編集局長が「回顧録」では語られなかった事実を、公正な視点から追究・総括。憲政史上最長であった政権を徹底検証するとともに、マスコミ・ジャーナリズムの責任にも迫る。

『ジェンダー目線の広告観察』

多様性

小林美香【著】/現代書館 (2023/9)



脱毛、美容、成功者のロールモデル・・・。私たちのコンプレックスを刺激し、画一的価値観を無意識下に刷り込み、消費へと誘う広告たち。プロパガンダ的規範・価値観に支配されず、自分で思考・選択していくには、「メディアリテラシー」の重要性を考察！

『離れていても家族』

家族論

品田知美・水無田気流 他【著】/亜紀書房 (2023/8)



父は仕事で不在、母はワンオペ育児・家事。そんな現代日本の家族が、それぞれ自由かつ頼り合いながら生活していくには？家族との時間を重んじるイギリスとの比較を交えつつ、これからの「ハッピーな家族の在り方」を社会学者達が探る！

▶トピックス：「農業」に関する書籍

新着

『有機農業はこうして広がった ～人から地域へ、地域から自治体へ』

谷口吉光【編著】/花伝社 (2023/2)



「有機学校給食」など、有機農業を政策に取り入れる自治体が増えている。市町村の先進事例を調査し、有機農業が社会化するプロセスを分析、明らかにする。「日本では有機農業は広がらない」という通説を覆す！

『土を育てる ～自然をよみがえらせる土壌革命』

ゲイブ=ブラウン【著】/NHK出版 (2022/5)



温暖化対策に有効だと脚光を浴びる「環境再生型農業」。その第一人者によるノンフィクション作品。生態系を阻害せず土地を回復すれば、食料危機・環境破壊等の対策にも繋がる。野心的「土壌のバイブル」。

『半農半X ～これまで・これから』

塩見直紀他【編】/創森社 (2021/11)



農業と自分の好きな仕事両方に携わる「半農半X」。当初の経済的負担が少なく、段階的に就農・就業できるため、若い世代を中心に今広がりを見せている。その実践例や自治体支援例を紹介し、実態と将来性を探る。

『農家はもっと減っていい ～農業の「常識」はウソだらけ』

久松達央【著】/光文社 (2022/8)



「貧農像」はもう古い！現代農家の抱える問題は深く構造的で「善行」で助けられるようなものではない。第一線の農業者である著者が、忖度なしの具体的かつロジカルな提言で読者の認識をアップデート。

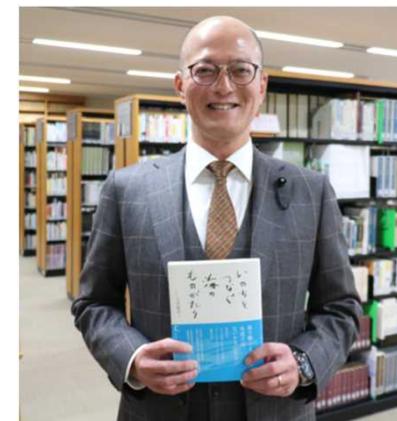


図書広報委員がおすすめる一冊

『いのちをつなぐ 海のものごたり』



著者：矢田勝美 /ラトルズ (2012年)



紹介者：相沢 崇文 委員
自由民主党・桐生市選出・2期

私がおすすめする一冊は「いのちをつなぐ海のものごたり」です。漁師とその家族を通して、生きるとは命とは何かを、日々の営みから語りかけてきます。

漁をするという業は、大地や海の恵が生活を支えてくれるものと同時に命をかけた危険と隣り合わせの仕事であり、自身と家族は豊漁と安全を毎日祈ります。

伝統を継承していく難しさと価値観の変化、未来への希望や危うさを目の当たりにして、自らの生きがいや他者への優しさ、家族を形作る絆をふとした瞬間に考えさせられます。

思いやりや感謝、不安や心配な感情は、私たちの日常が決して当たり前のことではなく生かされているという実感を得られると思います。ぜひ、お手にとっていただきたいです。

次号では、加賀谷 富士子 委員におすすめしていただきます！



議会事務局政策広報課（議会図書室）